

情報公開用文書

「慢性ウイルス性肝炎・肝硬変の抗ウイルス治療と予後に関する後ろ向き調査」

近畿大学医学部消化器内科では、上記の調査を行っております。本研究では、当院で慢性ウイルス性肝炎にて抗ウイルス療法を受けられた方の治療後の経過を、診療記録の情報をもとに調査するものです。本研究に情報を提供したくない場合は、遠慮なく担当医にお申し出下さい。それにより、今後の診療等に不利益が生じることは一切ありません。

研究の意義・目的

近年の慢性ウイルス肝炎や肝硬変に対する抗ウイルス治療の進歩により、短期的なウイルス制御は良好な成績となっています。しかし、長期の期間に渡るウイルスの制御や予後との関連の臨床データはまだ充分ではありません。本研究の目的は、慢性ウイルス肝炎や肝硬変で抗ウイルス療法を受けた例を調査し、現時点での治療成績や予後を知ることにあります。

対象

1992年以降に、当院でB型慢性肝炎・肝硬変、もしくはC型慢性肝炎・肝硬変の診断にて、肝炎ウイルスに対する抗ウイルス療法（肝庇護療法、慢性肝炎や肝硬変に対する合併症に対しての薬物療法を含む）を受けられた方。

研究機関名

近畿大学医学部消化器内科

研究方法

本研究は、診療記録より肝炎ウイルスに対する抗ウイルス療法治療前後での身体の状態、検査データ、選択された治療法、肝炎再燃との関連、生存期間、イベント発生までの期間との関連を調べ、治療法とその後の臨床経過との関連を調査します。

個人情報の取扱い

データの入力に際しては、新たに設定した識別番号が用いられ、個人が特定されるような情報の入力はされません。また、識別番号と診療記録の対応表が他施設に渡ることはありません。この解析結果は、個人が特定されない形式で、論文や学会等で発表されることがあります。対応表は近畿大学医学部消化器内科の鍵のかかる保管庫で保管され、研究終了後は完全にデータの消去がなされます。

研究期間

近畿大学医学部倫理委員会承認後 10 年間

研究事務局および問い合わせ先

近畿大学医学部内科学教室・消化器内科部門

西田 直生志

TEL: 072-366-0221 (3525)